新どさんこ・発見

vol. 13

しんどさんこばなし

一歩先の〝新どさんこ〟を
新どさんこ研究所
山岸所長が訪れる

離れたからこそ見えてくる北海道の〝かっこよさ〟

新どさんこ #13

村上智彦さん 鹿川慎也さん

宮大工である村上さんは1978年生まれ、ギター職人の鹿川さんは1987年生まれで、ともに恵庭市出身。2015年、新巻鮭の輸送用木箱を再利用するものづくりユニット「ARAMAKI」を結成。シャケバッグやシャケレレ®を皮切りに、斬新な発想で魅力的な作品を生み出し続けている。

鮭箱に新たな命を吹き込むARAMAKI

目にすることに慣れすぎて、見落とすものは案外多い。そう気付かせてくれるのが、宮大工・村上智彦さんとギター職人・鹿川慎也さんの、ものづくりユニット「ARAMAKI」だ。木を扱うことをなりわいとする彼らが再発見したのは、道民にはなじみ深い新巻鮭の輸送用木箱・鮭箱。役目を終えた鮭箱に新たな命を吹き込んだ、バッグや楽器、小物や家具などの斬新かつ洒落たデザインが話題を呼んでいる。

2人は一度北海道を離れ、それぞれ数年前に地元である恵庭市に戻ってきた。「帰ってきて新鮮に見えたものがいくつかあって、鮭箱もその一つ。かっこいいよな、って思いました」と村上さん。箱を譲り受けてバッグを作り、シャケバッグと命名。村上さんの自宅でそのバッグと出合い、衝撃を受けたのが鹿川さんだ。「もう、かっこよくて。悔しいので自分も何か作ろうと」、ウクレレ＝シャケレレ®を完成させた。2人のクラフトマンは互いに刺激を受け合い、2015年、ARAMAKIを誕生させる。

〝モテる〟作品を作りたい

鮭箱を深く知りたいと製造会社を訪ね、社長と意気投合。彼らのアイデアと工場の技術を応用した製品づくりも始まった。札幌や東京で展覧会を開催、台湾ではイベントに出展するなど、活動の場は広がっている。だが、「僕らは好きで作っているだけ。基本的にモテたいんです」と笑う。見た人が喜んで、「欲しい」とほれ込む、そんな〝モテる〟作品を作り続けたいという。また、新巻鮭という北国独特の文化が再注目されるきっかけになれたら、と思いを語った。「僕らのプロジェクトは、鮭を軸にまだ広がり続けます。ぜひ今後の取り組みに注目してください」。

「北海道は日本において
ユニークな存在だ」と思う
北海道民は61.8%
北海道民の経済意識はこちら
http://shindoken.com

新どさんこ研究所

インタビュアー
新どさんこ研究所 所長
山岸 浩之
Hiroyuki Yamagishi
2014年北海道博報堂入社。
コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、
北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。